

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成28年度 技術情報第7号(早期水稻の斑点米カメムシ類)について (送付)

早期水稻の斑点米カメムシ類について、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

## 平成28年度 技術情報第7号

- 1 対象病害虫 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ, ホソハリカメムシ, シラホシカメムシ, アカスジカスミカメ 等)
- 2 対象作物 早期水稻
- 3 予報内容
  - (1) 発生地域 早期水稻地帯 (県本土)
  - (2) 発生時期 出穂期以降
  - (3) 発生量 やや多
- 4 予報の根拠
  - (1) 早期水稻周辺の畦畔などのイネ科雑草地等 (イタリアンライグラス) ですくい取り調査を6月1～3日に行った結果、次のとおりであった。
    - ア カメムシ類の発生か所率は92.9% (平年(過去5か年の平均, 以下同じ): 85.4%) と平年に比べやや高かった (第1表)。
    - イ 中発生以上の発生か所の割合は、県全体で41.1%であった (第2表)。
    - ウ 斑点米カメムシ類の生息場所となる水田の畦畔においては、雑草化したイタリアンライグラスが多く見受けられ、すくい取り調査(捕虫網20回振り)での平均捕獲虫数は14.9頭 (平年: 9.4頭) と平年に比べて多く、特にアカスジカスミカメが多い (第3表)。
    - エ カメムシ類の種別構成比はアカスジカスミカメが最も高く、次いでクモヘリカメムシ, ホソハリカメムシ, シラホシカメムシの順であった (第3表)。
- 5 防除上注意すべき事項
  - (1) 斑点米カメムシ類による斑点米の混入は米の検査等級格下げにつながり、とくに早期水稻では品質低下の主な要因となる。
  - (2) 水田周辺の雑草地などが飛来源となるので、出穂の10日前頃までに畦畔の草払いなどのは場管理に努める。
  - (3) 出穂の早いほ場では集中的に飛来する恐れがある。
  - (4) 航空防除等により広域に一斉防除が行われた地域では穂揃期の防除は必要ないが、乳熟期以降の発生に注意し、発生が多い場合は補完防除を行う。
  - (5) 一般防除地域については穂揃期に防除を行い、その後の発生状況にも十分注意する。穂揃期の防除後も発生が多い場合は、穂揃期の7～10日後に追加防除を行う。
  - (6) 防除は農薬の使用基準を遵守し、時期を失しないように行う。また、薬剤が周辺環境などに飛散しないようにする。

(参考資料)

**第1表 早期水稲周辺イネ科雑草地における斑点米カメムシ類の発生状況 (2016.6.1~3 調査)**

調査年	2011	2012	2013	2014	2015	本年	平年 <sup>2)</sup>
調査か所数	56	56	56	56	56	56	—
発生か所率(%) <sup>1)</sup>	98.2	89.3	87.5	73.2	78.6	92.9	85.4

※ 1) 発生か所率(%) =  $\frac{\text{発生か所数}}{\text{調査か所数}} \times 100$       2) 平年は過去5か年(2011~2015)の平均値。

**第2表 早期水稲周辺イネ科雑草地における斑点米カメムシ類の地域別、発生程度別割合 (2016.6.1~3 調査)**

地域	調査か所数	発生か所率(%)	発生程度別割合(%)				
			甚	多	中	少	無
南 薩	28	89.3	3.6	7.1	28.6	50.0	10.7
大 隅	28	96.4	0	14.3	28.6	53.6	3.6
県全体	56	92.9	1.8	10.7	28.6	51.8	7.1

※ 発生程度別基準 (捕虫網すくい取り20回振り虫数)

調査場所	発生程度				
	甚	多	中	少	無
雑草地等	61頭以上	31~60頭	11~30頭	1~10頭	0

**第3表 早期水稲周辺イネ科雑草地における斑点米カメムシ類の種類別、地域別発生状況 (2016.6.1~3 調査)**

地域	調査か所数	項目	クモハリ	ホソハリ	ミナミアオ	シラホシ	イネ	アカシジ	合計
			カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カスミカメ	
南 薩	28	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	0.5	1.6	0	0.1	0	12.9	15.0
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	14.3	35.7	0	7.1	0	75.0	89.3
大 隅	28	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	1.9	0.6	0	0.07	0	12.2	14.8
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	25.0	21.4	0	7.1	0	92.9	96.4
県全体	56	平均捕獲虫数 <sup>1)</sup>	1.2	1.1	0	0.1	0	12.6	14.9
		種別構成比(%) <sup>3)</sup>	7.8	7.3	0	0.5	0	84.4	100.0
		発生か所率(%) <sup>2)</sup>	19.6	28.6	0	7.1	0	83.9	92.9
		平 年 <sup>4)</sup>	0.6	0.8	0	0.3	0	7.7	9.4
平均捕獲虫数		2015年	0.4	1.0	0.02	0.1	0	7.6	9.1
		2014年	0.2	0.6	0	0.3	0.04	3.1	4.2
		2013年	1.0	0.6	0	0.3	0	11.4	13.2
		2012年	0.1	0.7	0	0.3	0	6.6	7.7
		2011年	1.3	0.9	0.02	0.5	0	9.9	12.6

※ 1) 平均捕獲虫数 =  $\frac{\text{総捕獲虫数}}{\text{調査か所数}}$       2) 発生か所率(%) =  $\frac{\text{発生か所数}}{\text{調査か所数}} \times 100$       3) 種別構成比(%) =  $\frac{\text{捕獲虫数}}{\text{総捕獲虫数}} \times 100$

4) 平年は過去5か年(2011~2015)の平均値。